

ごく普通の働く人々のまわりにある キラリと光る言葉や出来事を紡ぐ

認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク（戸茷利和理事長）は、平成29年6月9日、第2回「仕事のルビー 働くサファイア」（通称「ルビサファ」）の入選3作品を発表した。応募者の年齢層は10代から80代までと幅広く、国内各地域はもとよりドイツ、フランス、イタリア、イギリス、シンガポール、オーストラリアなど海外からの投稿も含めて、第1回を大きく上回る420作品の応募があった。

仕事の「キラリ」伝えるつぶやきを

認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク（戸茷利和理事長）は、6月9日、戸茷利和理事長、菊池桃子理事、川野晋太郎副部長出席のもと記者会見を行い、職業キャリアに関する投稿企画である第2回「ルビサファ」の入選3作品を発表した。

同NPOは、働く人々が意欲と能力に応じて仕事を選択し、職業生活を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の普及啓発等を目的に活動している。同企画は、働く私を動かした言葉や出来事に関する250字のつぶやきを募集し、働く意義や仕事のやりがいを共有・編纂し未来に伝えていくことを目的に、昨年からの実施。今回は日本各地及び海外の様々な国々から420件（第1回274件）の応募があったという。

そして、「キラリしごと大賞」には関東在住の方（匿名希望）、「ルビー賞」には関東在住の鈴木徳子さん、「サファイア賞」には関西在住の中里裕輔さん——の作品が選ばれた（39～40ページ参照）。



▲左から菊池理事、戸茷理事長、川野副部長

今秋にも第3回の応募受付を開始

大賞の選考理由として、戸茷理事長は「主体的に働いていく、主体的に能力を発揮するという、キャリア権の趣旨を体現している」などと説明した。

また、ルビー賞は「熱い気持ち」、サファイア賞は「論理的、温かさ」などについても考慮されたという。

菊池氏は、「機械の中でどのように働いていくかという時代にあっても、人間の心は普遍的であり、ますます心が大切になっていくのではないかと、細く長く続けていきたい」「ごく普通の働く人々の周りにも、キラリと輝く言葉があるということが、今回の取組みで分かっただけだったら嬉しい」などの旨を述べていた。

なお、第3回ルビサファ賞の応募受付は今秋にも開始される予定だ。

第2回「仕事のルビー 働くサファイア」

～働く私を動かした言葉や出来事～

入選作品

★キラリしごと大賞 匿名（関東 20歳代）

「入社三年目」

会社に対して不満を言う先輩。それを聞いて不安になる私。

そんな私に上司がこんな言葉をくれました。「会社に対して不満を言っている人ほど何もしていない。辞める能力も無いからただ会社にぶら下がっているだけ。本当に能力のある人はどんな仕事であれ、ベストなやり方を見出して、一番を目指し、最善を尽くしてるよ。どんな仕事でもそう。その仕事の仕方ですべてのは変わってくるし、仕事の価値を上げるのも下げるのも自分次第だよ」と。

この言葉で不安が消え、この上司について行こう、この仕事を続けよう、私はそう思いました。

〈ご本人コメント〉

この度は素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。この言葉をくれた上司に感謝したいです。また、私のように仕事に対して、不安を感じている方に、少しでも何か届いたら嬉しいです。こんな素敵な言葉をくれた上司ですが、今月から部署異動になってしまいました。新入社員の時からお世話になっていたのも、とても淋しいですが、この頂いた言葉を忘れず、これからも楽しく自分らしく、働いていきます。

★ルビー賞 すずむら とくこ 鈴木 徳子 さん（関東 60歳代）

「支えた言葉」

1ヵ月海外語学研修参加を躊躇っていると

「英語教師の仕事を継続していくのに、後回しにして、何もいい事はない。幸いに、子供達は夏休み期間だ。行ってくればいい。何とかなるよ。」

夫は、母親だから、妻だから、女性だからという理由で拘束しない。

「食事はどうするの」「子供達のことは、気にならないのか。」「そんな長い間、家を留守にして平気なのか。」そんな言葉は、一言もなかった。

参加申し込みの決断ができたのは、夫の支えが大きかった。

〈ご本人コメント〉

働く女性の多くは、母親でもあり、妻でもある。責任ある仕事、子育て、家事に追われる日々となる。夫と共に知恵を出し合い、遣り繰りしなければならない。互いに仕事と子育ての両立に奮闘する。

一方、自分が納得いく仕事をしたいという思いを捨てることができない。それは、家族をおいて、1ヵ月のアメリカ語学研修参加することだった。今回受賞することとなった夫の言葉は、その後仕事を継続するうえで大きな転機となった。社会通念的な考えを押し付けられない夫に感謝したい。

そして、誰もが、画一化することなく一歩踏み出せる社会であって欲しいと思う。

★ サファイア賞 なかざと ゆうすけ 中里 裕輔 さん（関西 30歳代）

「ペンキ屋さんの宝物」

いわゆるペンキ屋さんをしている私。
 いろんな色を塗っている私の仕事着はペンキまみれ。
 白色のズボンが何色だったのかわからないほど。
 仕事着で歩いていると、周りの人は汚いと言わんばかりに少し離れていく。
 それが嫌で仕事の行き帰りは必ず着替えている。
 ある日、仕事着のまま家に帰宅。帰りを待っていてくれた娘が私を見てひとこと。

「パパ、いろんな色が付いててキレイだね」
 それ以来、仕事着が汚れるのが嫌ではなくなりました。
 今日ではどんな色を塗ったの？と聞くのが娘の日課に。
 ペンキ屋さんの小さな幸せです。

〈ご本人コメント〉

このルビー賞は私ではなく、娘が受賞したと思っております。
 汚れることが嫌だった私ですが、娘の一言で仕事に対して誇りを持つことができるようになりました。

また、「今日はこんな色を塗ったよ」という何気ない娘との会話が日課になり、仕事が楽しくなりました。

そんな娘が大きくなって同じような言葉をかけてくれるのかわかりません。
 きっと、「お父さん、汚い」なんて笑いながら言われるのでしょうね。
 そんな時はこのルビー賞を受賞したことを娘に話してやりたいと思います。
 ペンキ屋さんを汚い目で見るのではなく、娘のように感じてもらえたら嬉しいです。

〈募集概要と応募結果〉

【募集内容】働く私を動かした言葉や出来事に関する250字のつぶやき

【表彰】「キラリしごと大賞」（1名）：賞状と副賞（3万円の図書券）

「サファイア賞」（1名）：賞状と副賞（1万円の図書券）

「ルビー賞」（1名）：賞状と副賞（1万円の図書券）

【応募数】420件（男性201件：女性219件）※ 第1回は274件（53.3%増）

【応募年齢】10代から80歳以上まで。職業は、漫画家、モデル、通訳、介護士、障がい者、SE、教師、公務員、会社員、退職後主婦、定年後の方、契約社員、パート・アルバイトなど様々

【応募者の在住地域】日本国内は、北海道から沖縄・九州まで。海外は、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、シンガポール、オーストラリアまで

【選考】2017年2月28日（火）に応募を締め切り、3月30日（木）に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会（8名）による選考を行った。

【選考委員】委員長／戸苅利和理事長
 副委員長／菊池桃子理事（女優・戸板女子短期大学客員教授）
 委員／同NPO担当部長

【主催】認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク



▲「細く長く続けたい」と菊池氏